

## 第85回反省研修会日程

会場 ロサンゼルス ホテルイン・トランス

9月3日(土)

- 13:00 ~ 13:10 研修の案内
- 13:10 ~ 14:10 講話 「神の子の道 (1) 意識と肉体」
- 14:20 ~ 15:20 質疑応答
- 15:40 ~ 17:00 瞑想
- 18:00 ~ 夕食
- 19:30 ~ 20:30 講話 「神の子の道 (2) 自分の心を見る」
- 21:00 ~ 22:00 反省 [ ] について
- 22:00 ~ 自由時間・就寝

9月4日(日)

- 7:30 ~ 朝食
- 9:00 ~ 9:30 講話 「私とともに歩んでください。」
- 9:40 ~ 10:40 瞑想と反省
- 11:00 ~ 12:00 反省 [ ] について
- 12:30 ~ 昼食
- 13:30 ~ 14:30 質疑応答
- 14:40 ~ 15:40 瞑想と反省
- 16:00 ~ 17:00 反省 [ ] について
- 18:00 ~ 夕食 (レセプション)
- 20:00 ~ 21:00 反省 [ ] について
- 21:20 ~ 21:50 天上界からの言葉
- 22:00 ~ 自由時間・就寝

プリント 「神の子の道」「真の幸せへの門出」「現象 意識について」  
「私とともに歩んでください。」

## ロサンゼルス研修会概要

日次	月日曜	現地時刻	摘 要	食 事	備 考
1	9/2 (金)	大阪発 10:35 成田空港 15:15 大阪発 12:35 成田着 13:45 17:15 ロサンゼルス着 11:00	国際線出発ロビー 航空機(全日空) 日付変更線通過 貸切バス 到着後ロサンゼルス市内観光	ホテル予約 昼食 夕食	その他 レストラン
2	9/3 (土)	ホテル会議室 13:00 22:00	午前 自由行動 午後 一泊反省研修	朝食 夕食	
3	9/4 (日)	ホテル会議室 22:00	午前 自由行動 午後 現地歓迎レセプション 夜	朝食 夕食	現地の方々のご招待
4	9/5 (月)		終日 自由行動 オプションツアー(申込者) 部屋割 前後半入れ替え	朝食 昼食 夕食	ツアー参加者 朝食予約 昼食付 ツアー不参加者 部屋名義により移動が必要
5	9/6 (火)	ホテル会議室 13:00 22:00	午前 自由行動 午後 一日研修 夜	朝食 夕食	
6	9/7 (水)	ホテル出発 ロサンゼルス着 10:30 空港発 12:50	出発迄 自由行動 航空機(全日空) 日付変更線通過	朝食 機内食	
7	9/8 (木)	成田着 13:45 17:15 大阪着 20:25	入国手続・税関検査 終了後 解散		

※ 治安よくはないようです。単独行動は数に揃って下さい。(トイレも複数です)

1988年9月2日に初めてのアメリカセミナーがロサンゼルスで開催されました。

……と思うや、翌1989年の3月には第2回がロサンゼルスとシカゴで、さらに9月には第3回が、同じくロサンゼルスとシカゴで開催されるに至ったのです。この一連のロサンゼルスでのセミナーが、当時、14歳だった一人の少女の心にある衝撃を与えました。

やがて、その衝撃が「Our Essential Nature (意識の旅路)」という本となりました。

私はジェニー・ライです。この学びにもう20年以上関わっています。最初、田池氏にロサンゼルスで出会ったのは、私が14、5歳の頃でした。田池氏の「お話し会」に参加し、帰宅した母を覚えています。母は転生、意識とは何かを説明してくれました。それに興味がわき、もっと知りたいと思いました。というのも、私はそんな若い頃から気分が滅入っていて自殺願望がありました。入生に生きている価値を見出せず、苦しみの中でさ迷っているように感じていました。私の心はいつも満たされることなく、悲しくてさみしくて、いつもいつも自分の存在理由を問い続けていました。しかし、田池氏のお話では、永遠の意識、そして温もりが私たちの真の存在だと語られていました。

興味をそそられた私は、自分でその講演会に参加してみようと思いました。初めて田池氏に出会ったとき、心の中に衝撃的な温もりを感じたのを覚えています。それまで全く感じたこともない温かさに包まれたのです。田池氏にすごくひかれていきました。

とても若かったので、疑いさえもしませんでした。若いうちは心のままに従うという智慧をみんな持っています。私はそうしました。ただ求めていきました。その頃は日本語を全く話せなかったので、田池氏の講話は母に通訳してもらいました。田池氏は、母親、そして母親の反省の大切さ、反省をすれば自分の心の中に何かを感じてくるという話をされていました。何も失うものはない、すべて自分のためになると感じ、やってみることにしました。そして日記をつけはじめました。その日記は、人生そして母親についての反省でうめられました。大きな分厚いノート10冊を書き終えた頃から、私は少しずつ心に何かを感じはじめました。無視できないような感覚が心に湧いてくるのです。突然涙が出てきたり、衝撃的な温もりを感じたり、そしてもっと重要なのは、日々の生活に満足感を覚えるようになったことです。ですから私は日記を書き続け、瞑想をし、できる限り日本での講演会に出席しました。

# *Our Essential Nature*

My name is Jennie Lai. I have been involved in this study for more than 20 years. When I first met Mir. Taike in Los Angeles, I was quite young maybe 14 or 15. I remember my mother coming home from one of these "talks" by Mr. Taike. She explained to me the concept of reincarnation and consciousness. I was intrigued and wanted to know more because even at such a young age, I felt depressed and suicidal. I couldn't understand why life was worth living and felt I was wallowing in the depths of my suffering. I always felt dissatisfied, sad, and lonely in my heart, constantly questioning the reasons for my existence. However, the talks of Mr. Taike spoke of an eternal consciousness and that warmth was our true existence.

With my interest piqued, I decided to attend one of these lectures myself. I remember feeling a shock of warmth in my heart the first time Mr. Taike and I met. I felt something very different and warm surrounding me. I remember feeling very drawn to Mr. Taike.

Being so young, it wasn't difficult not to question. When you are young, you have the wisdom to just pursue what tugs at your heart. That is what I did, I just pursued. My mother translated Mr. Taike's lectures because I didn't speak an ounce of Japanese at the time. He spoke of mother, and the importance of reflecting on mother and that after doing this you would feel something within yourself. I felt that I had nothing to lose and everything to gain, so I gave it a go and began to keep a journal. This journal was filled with reflections on life and on Mother. After writing in about 10 yellow legal pads, I slowly began to feel something in my heart. The feelings arising in my heart were something that I could not ignore. I would spontaneously weep and feel shocks of warmth and more importantly, more contentment in my physical life. So I kept writing in my journal, doing meditation, and attending talks in Japan when I could.

